

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0370901019
法人名	社会福祉法人 川崎寿松会
事業所名	グループホーム ことぶき
所在地	岩手県一関市川崎町薄衣字久伝26番地 (電話) 0191-43-2881

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成21年1月23日	評価確定日	3月24日

【情報提供票より】(21年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
(※おやつ代込みで、1日 ¥1,000計算)				

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	- 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立千厩病院(総合病院)、国保川崎弥栄診療所(歯科)
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>一関市川崎町の中心地にあり、近くにはスーパーが建っており、買い物がしやすく、利便性のある地域である。母体法人の福祉法人川崎寿松会が運営する特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、在宅介護支援センター等と一緒に敷地内にあり、開設3年目で明るく広いグループホームである。母体法人と連携を図りながら、「自由」をモットーに地域との交流を大切に、職員が一丸となって支援している。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の課題事項については、職員で話し合い、改善に取り組んでいる。夜間における災害対策について、今後、取り組みを希望したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で実施し、出された課題はグループホーム会議等で検討しながら、創意工夫して取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はグループホームの活動や情報を報告して施設の理解に努めている。地域密着型のサービス施設として運営推進会議を活用して地域との連携を深めるよう期待したいと思う。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の生活状況は、ケース記録や広報紙の他、電話等で報告している。家族からの要望や意見が少ないようであるので、それぞれの意見等の汲み取りの工夫が必要と思われる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>花火大会見学、道の駅まつりの参加、中学生ボランティアとの交流等、地域との連携に努めている。利用者の外出で、地域と顔馴染みになり、地域からの協力も得られるように取り組んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由」をモットーに「笑顔あふれる日々を送っていただけるよう、一人ひとりにあった生活を支援します」を理念に掲げ、地域行事への参加、スーパーへの買出し等地域の理解を深めながら支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内に理念を掲示している他、毎月のグループホーム会議やケアプラン会議等で話し合っている。また、毎日、母体法人の朝礼に参加し、情報を共有しながら理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花火大会見学、道の駅まつり、JAまつり等への参加や母体法人行事で中学生ボランティアとの交流会の他、餅つき、水木団子づくりの実施、廃品回収の協力等地域との交流に努めている。	○	自治会・老人クラブ活動等地域との交流に取り組んでいるが、地域に密着した事業所として、更なる取り組みを期待したいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、自己評価は職員全員で行なっている。評価結果については、グループ会議等で話し合い、サービスの提供に活かしている。また、評価を活かし「グループホーム職員の心得15か条」を作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は自治会長、民生委員、市役所職員、家族代表、職員2名の他、会議のテーマにより、消防署や警察署にも出席を依頼して、開催している。グループホームの活動や情報を報告して、事業所の理解を得ている。今後は、会議を活用し、地域との連携を深めるような取り組みを期待したいと思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、必要に応じ、電話連絡で指導・助言を得るなど連携を図っている。市との関わりが薄いように感じられるので、更に連携を深めてサービスの向上に取り組んでいただきたいと思う。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況や健康状態は、毎月ケース記録の写しや、広報紙(川崎寿松会だより)に担当職員のコメントを記入し家族に報告している。金銭の出納については、2カ月に1回領収書を添えて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置、運営推進会議に家族代表(2名)の出席等、家族の意見聴取に努めている。苦情箱の利用、家族からの意見・要望が少ないようであるので、率直な意見が聴けるよう工夫が必要と思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所で、職員の歓迎会や送別会を利用者と一緒に行い、利用者が職員に馴染めるようにしている。昨年は、4月に1名、11月に産休代替で介護人が1名と職員の異動が少なく、利用者のダメージが無かったようである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県認知症高齢者グループ協会の研修会、両磐ブロック研修会に、職員が順番に参加する他、内部研修会、母体法人の特別養護老人ホームでの介護研修等、職員の育成に取り組んでいる。	○	母体法人に研修委員会が設置され、職員研修が実施されているが、他グループホームとの職員交流会等も期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会等に参加して同業者との交流や意見交換を行なっている。また、年1回室根の孝養会、千厩寿敬会、川崎寿松会の3施設で交流会を行い、情報収集しながらサービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前調査にケアマネジャーと、担当職員が訪問面接を行なう他、利用(入居)前に本人が家族と事前見学をして頂き、事業所に馴染み、納得した上で、サービスの提供をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食後の後片付け、洗濯物の整理、掃除や畑の草取り等、利用者と職員と一緒に過ごしながらか支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者一人ひとりの希望や意向を把握するとともに、家族からの希望等も取り入れ、利用者の視点に立って支援している。時には、自宅への外泊も行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン会議には、所長、ケアマネ、担当職員が出席してサービス内容を検討する他、事前に電話や面接で家族の要望等を聞き、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援記録等により、定期的に介護計画の見直しを行なう他、状態の変化が生じた場合には、その都度、現状に即して介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の特別養護老人ホームと連携を図りながら、利用者の状況や要望に応じて、柔軟な支援をしている。状態の変化時には、主治医に直接連絡して意見や指示を仰いでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族対応で、かかりつけ医の受診をしている。状態の変化時には、ケース記録のコピーを持参して頂き、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、特別養護老人ホームへ移る等の早期対策を利用(入居)時に説明している。重度化や終末期のサービス提供について、話し合いを行い方針を共有する必要があると思われる。	○	利用者は、年々高齢化して行き、それに伴った重度化等の可能性もあるので、重度化や終末期におけるサービス提供について、母体法人や家族、職員等で検討を行い、方針を共有して欲しいと考える。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法や、母体法人が定めた個人情報の保護規程により、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の趣味や特技を活かして、水彩画や編み物、買い物、散歩、畑の草取り等、一人ひとりのペースを見守りながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好みや意見を取り入れて作成している。食事の準備、後片付け、食器拭き等利用者と一緒にこなしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のマニュアルを作成して、バイタルチェックを行ないながら、毎日入浴を目標に一人ひとりの希望を取り入れて、支援している。時には、夕食後の入浴も行なっている。入浴が困難な利用者には、母体法人の特別養護老人ホームの特浴を利用することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の食材の購入、ゴミ出しの手伝い、食器拭き、習字、室内ゲームの実施等一人ひとりが役割や楽しみが持てるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日順番に近くのスーパーで食材の買出し、近隣の散歩等一人ひとりの希望に添って外出を行い、地域の人と顔馴染みになれるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関等外への出入り口にはチャイムが設置され、人が出入りすると音が出るようになっており、日中は鍵を掛けないで、支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体法人組織と合同で、避難訓練や緊急連絡網の訓練を実施している。夜間の対応についても実施する必要があると思われる。	○	災害対策にはスタッフ(人手)が必要である。夜間は、職員が1人だけであるので、夜間における緊急連絡網の確認等、夜間対策についての取り組みを希望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量は毎日チェック表に記録されており、献立の栄養バランスについては定期的に母体法人栄養士のチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が広々とゆとりがあり、小上がりの和室には大きなコタツが設置され、食堂と共にゆったり過ごせるようになっている。廊下には、長いすのほか加湿器も置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室冷暖房の個室になっており、好きな家具の持ち込みは自由で、テレビ、衣装ケースなどが置かれている。各居室には、ベッドや洗面台が付いており、部屋はきれいに整理・整頓されている。また、夜間は、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。		